

群馬県がん患者ミーティング2026を開催しました

2月28日（土）、（公財）群馬県健康づくり財団との共催により、群馬県立県民健康科学大学にて『群馬県がん患者ミーティング2026』を開催しました。

今回のミーティングでは、日本対がん協会会長でがん専門医の垣添忠生先生をお招きして、映画『Dr.カキゾエ歩く処方箋～みちのく潮風トレイルを往く～』の上映とクロストークを行いました。

映画は青森県八戸市から福島県相馬市までのみちのく潮風トレイル1,025キロを歩くロードムービーです。がんサバイバーの支援と東日本大震災の被災者の心の傷に少しでも寄り添いたいという思いから歩くことを決心した垣添先生の映画は、希望を胸に復活する人の強さを教えてくれました。

当日は、患者会の皆さまのほかケアギバーさんや行政機関の方、医療関係者など、多くの方がご参加くださいました！

＼垣添先生を囲んで／



クロストーク



映画上映後はクロストークを行いました

垣添先生は、映画製作時の印象的なシーンや道中で出会った方の話を和やかにご紹介くださいました！



また、日本のがん検診受診率が低いことにも触れ、受診率向上を目指したいと力強くお話しされました

交流茶話会

クロストーク後の交流茶話会は多くの方に御参加いただきました
自身が所属している会のお話や治療の事など、所属や立場の垣根を越えて交流していました



皆さんの感想を一部抜粋させていただきます

- ・垣添先生の素敵な活動を拝見できる機会をありがとうございました。命の尊さは震災被災者もがんサバイバーも同じ。改めて前を向いて進んでいく勇気を頂きました。
- ・震災遺構や被災者、がん患者とその家族との対話を通して、希望が人に与える影響や希望を見出す、持ち続けることの大切さを改めて実感した。がんの発症を完全に防ぐことはできないが、その症状が進行する前に発見することで死亡リスクを低下させることができる。こういったことは防災と減災の考え方に通じるものがあると感じる。
- ・私自身、8年前に乳がん患者になり、術後、自分の気持ちを落ち着かせるため（がん患者になったことを納得させるため）たくさんの本を読み、垣添先生の「妻を看取る日」に出会い、たくさんの気づきをいただき、前を向くことができるようになりました。今回、私の恩人と思っている垣添先生で本人にお会いすることができ、映画も見られてとても感激でした。垣添先生の存在がたくさんのがん患者を救ってくださっていると改めて実感しました。

たくさんの御参加ありがとうございました！



事務局：371-0005 群馬県前橋市堀之下町16-1

(公財) 群馬県健康づくり財団 総務部企画広報課 (担当：安藤) TEL 027-269-7403